

『東方』二八一号より

『胡適全集』の概要

山口 榮（跡見学園女子大学）

待望の『胡適全集』が昨年九月安徽教育出版社によって刊行された。全四十四冊、凡そ二千万字から成るといいう大部な全集であり、各冊は簡体字を用い、横書き式の、装幀のしつかりし、少々小振りの手にし易い書冊である。

本全集の歌雲志の序文中に、

周知の通り、一九五〇年代に全国的な胡適批判運動があり、胡適は全面的に否定された。それ以来長い間彼の名前は批判を受ける場合を除き、顧みられることがなかった。この為若い人は胡適のことを全く知らず、少し年長の知識人は胡適批判の文章に見える歪められた胡適像を知るのみとなり、胡適を理解している友人や彼の学生は確かに居たが、彼等には胡適のために公正な発言を行なう機会がなかったのである。

しかし、このような状況に変化が起きた。それは改革・開放の時代になってからであるが、状況の転換する契機となったのは、一九七九年の五四運動六十周年記念である。その時から毎年各地の刊行物に多くの胡適研究文献が発表され、多くの出版社が数十種の胡適研究専著を刊行し、あるいは、文系の修士課程・博士課程で学修する若い研究者が胡適を研究題目に選んで学位論文を執筆するようになった。

そして此に胡適の既刊・未刊の著作・日記・書信等の多くが陸續と出版されるようになったのである。

とある。本全集は、このような趨勢の下、一九九二年に出

胡適著／季羨林主編

『胡適全集』（全四十四冊）

二〇〇三年・安徽教育出版社・九四、五〇〇円



版のための作業に着手したとのことであるので、十余りのかかなり長い歳月をかけて刊行されたことが分る。本全集の構成は次の通りである。

第一―四卷 『胡適文存』第一―四集

第五卷 「先秦名学史」『中国哲学史大綱』卷上「中国哲学史大綱」卷上（講義稿）「中国哲学史大綱」卷中（殘篇遺稿）等

第六卷 『中国中古思想史長編』（遺稿）『中国中古思想小史』（講義録）「戴東原的哲学」等

第七集 「老子」（遺稿）「先秦諸子進化論」「墨經新詁」（遺稿）「墨經合讀」（遺稿）「公孫龍子校讀」（遺稿）「西洋哲学史大綱」（遺稿）「杜威^{デューイ}哲学的根本觀念」等

第八卷 「王充的論衡」「新儒教之成立」（遺稿）「朱子語類的歷史」（遺稿）「顏李学派的程廷祚」「清代思想史」

学精神与科学方法」等

第九卷 「禪宗史草稿」(遺稿) 「中国禪学的起来」(遺稿)

「神会和尚遺集序」(遺稿) 「跋神会語錄殘卷」(遺稿) 「朱

子論禪家的方法」(遺稿) 等

第十卷 『嘗試集』(附「去国集」) 『嘗試後集』(遺稿) 「集

外詩」 「真如島」等

第十一卷 『国語文学史』 『白話文学史』(上卷)

第十二卷 「読曲小記」 「封神演義的作者陸西星」(遺稿)

「記金聖嘆刻本水滸伝里避諱的謹嚴」 「談紅樓夢作者的背

景」 「跋紅樓夢書録」(遺稿) 「跋乾隆甲戌脂硯齋重評石

頭記影印本」等

第十三卷 「清季外交史料序」 「兩千年中西日曆对照表序」

(遺稿) 「易林考」(遺稿) 「史籍里的兩漢戶口数」(遺稿)

「曹操創立的校事制」(遺稿) 「中国和日本的西化」 「二河

流域的文化」(遺稿) 「古埃及文化史」(遺稿) 「印度古代

的文化」(遺稿) 「羅馬文化史」(遺稿) 等

第十四—十七卷 水経注疑案考証

第十八卷 『四十自述』 『胡適口述自伝』 「一個狄克推多」

(遺稿)

第十九卷 『章實齋先生年譜』 「科学的古史家崔述」 「世界第

一女傑貞徳伝」 「読托洛斯基自伝」(遺稿) 「司徒雷登回

憶録導言」等

第二十卷 「非留学篇」 「杜威的教育哲学」 「大学開女禁的問

題」 「對於新学制的感想」 「書院制史略」 「爭取學術獨立

的十年計画」 「大学教育与科学研究」 「国語運動的歴史」

「国語運動与文学」 「飲食上の衛生」 「徽州談」 「女人纏足」

(遺稿) 「沈括論山崖間的貝族化石」(遺稿) 「象棋小考」

(遺稿) 等

第二十一卷 「武力解決与解決武力」 「研究社会問題底方

トップページにもどる

法」 「好政府主義」 「宣統与胡適」 「我們還主張召集各省

會議」 「人權与約法」 「知難、行亦不易」等、一九〇六—

一九三三年の時論

第二十二卷 「建設与無為」 「中国無独裁的必要与可能」 「答

陳序経先生」 「敬告日本国民」 「為学生運動進一言」 「自

由主義是什麼」 「寧鳴而死不默而生」 「從二千五百年前的

弭兵會議說起」等、一九三四—一九六二年の時論

第二十三—二十六卷 胡適の一九〇七—一九六二年の間の

親族・学友・学生・知人等宛の書翰二千三百余通

第二十七—三十四卷 一九一一年—一九六〇年の胡適の日

記

第三十五—三十九卷 The Development of the

Logical Method in Ancient China/The Chinese

Renaissance/The Philosophy of Tai Chen/Wang

Mang-the Socialist Emperor of Nineteen

Centuries Ago/The Cultural Conflict in

China/Conflict of Cultures/Confucianism Religion

and Philosophy in Chinese History/Social

Changes in China/Origin of the Ju and Their

Relations to Confucius/The Westernization of

China and Japan/China's Fight for

Freedom/Chinese Thought/Mankind Must

Resolve to Make This the Last War/To Win and

Keep the Peace等の英文著述

第四十一—四十一卷 胡適の E. C. Williams (韋蓮司) 女

史宛等の英文書翰八百余通

第四十二卷 杜威の北京大学に於ける講演「社会哲学与政

治哲学」 「教育哲学」 「思想之派別」 「現代的三個哲學家」

および山西大学に於ける講演「品格之養成爲教育無上之

目的「学校与郷里」、都徳の「最後一課」、ト朗吟^{フロンシン}の「樂觀主義」、易卜生^{イブセン}の「娜拉」(A Doll's House)等の翻訳文

第四十三―四十四卷 胡適年譜、胡適著訳繫年目録

このような内容を以て構成された本全集の編集・印刷作業に当っては、就中

一、『胡適手稿』(全十集、胡適紀年館、民国五十五(一九六六)・二―五十九(一九七〇)・六)

二、『胡適的日記』(全十八冊、遠流出版公司、一九九〇・一二)

一、耿雲志主編『胡適遺稿及秘蔵書信』(全四十二冊、黄山書社、一九九四、一二)

等を主とする文献の読み取り、整理に多くの日時を要したことであろう。

元来、胡適の筆記は敬慎を旨として為されていて、その遺稿・手札の読み取りに苦心することは殆んどないが、簡記・覚え書き、人に筆写を依頼したもの等はその限りではない。困るのはその遺稿・手札を写真版にし印刷造本するときに、文字が黒く潰れたり、薄く掠れたり、あるいは便箋の草花模様などの方が、その上に書かれた文字よりも濃く出て文字が全く見えなくなったりしていることである。

そういう箇所も読んで整理し、活字に直してあるのであるから、本全集の裨益するところは詢に大きい。しかし、少し誤記があり、また、補筆すべき事柄もある。その事例として、第十四―十七巻の水経注疑案関係の巻冊について、当面気付いたところを示すと次表の通りである(表一・表二)。

左表中、例えば「手一上」は胡適紀念館刊『胡適手稿』

トップページにもどる

第一集上冊の、「黄一」は黄山書社刊『胡適遺稿及秘蔵書信』第一冊の表記である。

尚、左表に見るように、第十四―十七巻は大部分が右の両書所収の遺稿によって構成されているが、その他に『中華文史論叢』(一九七九・二)所収の遺稿や『人文科学学报』(一九四五・九)三一、『申報文史』十二(一九四八・二・二八)所載の論稿も採録している。

この第十四―十七巻を初めとし、本全集の精読はまだこれからであるが、本全集により、胡適の人・思想・学問についての研究は捗ることであろう。我国でも多くの方が本全集を活用されるよう期する次第である。

●表一(勘語)

巻	頁	行	誤↓正
十四	目次四 九六 四九四	一一 一 二	自上述↓自述 卷一二→卷一二 LIBRAR→LIBRARY
十五	一一五 一四〇 一四一 一三八 三〇八 三二七 三二四 三六九 一六四 二七七 三〇七	註① 註① 註① 註① 註① 註① 註① 註① 註① 一一 五	上冊↓中冊 上冊↓中冊 上冊↓中冊 中冊↓上冊 中冊↓上冊 下冊↓中冊 第六集↓第四集 第六集↓第五集 disperly →discovery eovergence →convergence
十六			
十七			

●表二(第十四―十七巻を構成する遺稿等の原載頁)	
巻	頁・註
十四	一① 黄一 四七三―五〇六 一五① 黄四 五六九―四六三 二一① 黄三 九八一―一一五 二八① 手一上二九―三〇 三三① 黄三 二二三―二三三 三七① 黄二 四九四―五〇一 四八① 黄四 一―二八 五九① 黄三 一一四―一三八 六六① 黄三 二〇四―二二二 七〇① 黄三 二三四―二四一 七二① 黄三 一―三 七五① 黄三 一三九―一四四 八二① 黄二 五二五―五四一 八九① 黄三 四五七―四七一 九〇① 黄三 二四二―二四三 九〇① 黄四 四〇八―四二二 九九① 黄四 二九―三二 一〇一① 黄三 四―一一 一〇五① 黄二 五〇二―五二四 一一九① 黄四 二九七―三〇三

巻	頁	行	誤↕正
十七	三二八	六	discovery → discovery 第六集↕第五集 Gest → Gest に最近于ける ↓最近に于ける
	四四一 四九四 五〇五	註① 一七 一五	

トップページにもどる

巻	頁・註	遺稿集原載頁
十四	一二四① 黄四 一九六―二二一 一三二① 黄四 四二四、四五八 一三四① 黄一 五一九―五二三 一三七① 黄三 一二―二二 一四一① 黄三 二三―二五 一四三① 黄一 五二四―五二六 一四五① 黄三 一四五―一六七 一五六① 黄三 一六八―一七三 一五九① 黄三 一七四―二〇三 一七一① 黄四 四〇―四四 一七四① 黄四 四五―五二 一七八① 手二中三八七―四〇六 一八三① 黄四 二二二―二六八 二〇九① 黄四 五八―七〇 二一五① 黄四 四〇五―四〇七 二二一① 黄四 三九四―四〇四 二二四① 黄四 五三―五七 二二九① 黄三 二六―三六 二三八① 黄四 七一―八一 二三八① 黄二 七六―三三二 三二四① 黄二 三三三―四九三 三八四① 黄一 一一―〇六 四二二① 黄四 八二―九二 四二七① 黄三 二四九―二九二 四四五① 黄一 五二七―五三〇 四四八① 黄四 三二―三九 四五二① 黄一 二七九―三八二 四九一① 黄一 三八三―三九三 四九五① 黄一 四一四―四四四	

十五	巻	頁・註	遺稿集原載頁
五〇五①	一①	手三下五八九―五九四	
二①	黄四 二七四	黄三 三〇四―四一〇	
四五①	手六中二五七―二五九	黄四 一〇五―一二五	
四八①	黄四 一五二―一五九	手三下五五五―五六〇	
五八①	黄四 九三―九八	黄三 四〇―四二	
六二①	黄三 四八三―五九〇	黄四 一二六―一三一	
六五①	黄四 二七五―二八一	手四中二〇九―二二六	
六七①	黄三 四一―四五六	手四中二二七―二二八	
一〇八①	手四中二二九―二三一	黄四 三三七―三三八	
一一一①	手三下五八三―五八五	黄一 四四五―四七二	
一二三①	手三下六一四―六二二	黄三 四七三―四八二	
一四〇①	手三下五六一―五八一	手三下五〇五―五四七	
一四一①	手三下五四九―五五四	手三下四六五―五〇三	
一四三①	手四下三六九―三七五	黄三 四三―八三	
一四六①	手二上三―四	九―八九	
一五八①			
一六四①			
一六九①			
一七七①			
一九三①			
一九六①			
二一一①			
二二七①			

トップページにもどる

十五	巻	頁・註	遺稿集原載頁
二五九①	二七七①	手二上九三―一四一	
二八三①	二八八①	手一上七―二四	
二九一①	二九一①	手一上二五―二八	
二九九①	黄一 一三六―一四〇	手四上八九―一〇五	
三〇八①	黄四 一四〇―一五一	一三三―一三八	
三一二①	手三上七三―八〇	手三上八一―九一	
三二〇①	手三下四〇九―四一九	手二上二二―一二四	
三二七①	黄二 五四二―五四四	黄二 五四五―五四七	
三三〇①	黄二 五四八―五六〇	手三上三一―一五	
三三二①	手四上一〇九―一一三	手四上一一四	
三三四①	手三下五八七	手四上五七―八四	
三四一①	黄二 五六一―五六六	手二上一五七―一五八	
三四八①	手一中三六三―三六九	手三下六〇―一六〇三	
三五一①	六二二		
三五五①	手一上四九―七〇	手四上三九―一三九五	
三五六①	手一上七一―一二〇	手一上四一八―四二七	
三六九①	手一上一二一―一二二		
三七二①			
三七八①			
三八一①			
三八三①			
三九一①			
三九六①			
四一八①			
四二八①			

卷	頁・註	遺稿集原載頁
十五	四三二① 四三八① 四八〇①	黄三 九一—九九 黄二 二—七五 手五中 二八七—二九六 三八一—四一四
十六	四九七① 五二一① 一① 二二① 三一① 三六① 五八① 七〇① 八一① 一二七① 一三〇① 一三八① 二〇七① 二二三① 二二九① 二三七① 二四一① 二五三① 二六一① 二七五① 二九一① 二九八① 三二三①	手五中 二九七—三八〇 手三下 四二五—四六三 手三上 二一—七〇 黄四 一六八—一七九 黄四 一八〇—一九〇 手一中 二八九—三四七 手五上 六三—七七 黄四 三一五—三三六 手一中 一六九—二七四 手二中 三四三—三四八 手三上 九三—一〇二 手三上 一〇三—一六五 手三中 一七三—二九四 手二上 一六一—二一〇 手二下 四六一—四七三 手二中 三三一—三四〇 手二中 三七一—三七九 手二中 二一七—二四五 手五中 四二六—四四八 手三下 六二三—六四八 黄三 九一—九七 手五上 三一—四三 手五上 四五—六二 手二下 五三七—五七五 手六下 五〇一—五〇九

[トップページにもどる](#)

十六	十七
三三四① 手一中三七一—三七二 三二六① 手四上一一五—一二二 三三〇① 手三下四二一—四二四 三三三① 手五上一四一—二二四 三六三① 手一中三四九—三六二 三六九① 手四下四四三—四四五 三七六① 手四中一六五—一八九 三八六① 手六中二六一—二七三 三九一① 手四中二五五—三三七 四二一① 手六中三〇一—四〇七 四二五① 手二中二四七—三一八 四五八① 手六上一四五—一七三 四七〇① 手三下三六五—四〇八 四八八① 手六中二五五—二五六 四九〇① 手六中三〇九—三二六 五一七① 手四上一二三—一五一 一① 手五上七九—九七 一二① 手一上三三—四八 一八① 手二中三五—一三六九 二六① 手二中四七五—五七九 三五① 手二下四九三—五三六 五二① 手一上一五五—一六一 五六① 手一下四五三—四九九 七九① 手六中二七五—二九九 八九① 手五下四九一—五一五 九九① 手五中四六二—四九〇 一一① 手五中四五二—四六一 一六① 手四下四一三—四四一 一三一① 手二下四三一—四六〇	三三四① 手一中三七一—三七二 三二六① 手四上一一五—一二二 三三〇① 手三下四二一—四二四 三三三① 手五上一四一—二二四 三六三① 手一中三四九—三六二 三六九① 手四下四四三—四四五 三七六① 手四中一六五—一八九 三八六① 手六中二六一—二七三 三九一① 手四中二五五—三三七 四二一① 手六中三〇一—四〇七 四二五① 手二中二四七—三一八 四五八① 手六上一四五—一七三 四七〇① 手三下三六五—四〇八 四八八① 手六中二五五—二五六 四九〇① 手六中三〇九—三二六 五一七① 手四上一二三—一五一 一① 手五上七九—九七 一二① 手一上三三—四八 一八① 手二中三五—一三六九 二六① 手二中四七五—五七九 三五① 手二下四九三—五三六 五二① 手一上一五五—一六一 五六① 手一下四五三—四九九 七九① 手六中二七五—二九九 八九① 手五下四九一—五一五 九九① 手五中四六二—四九〇 一一① 手五中四五二—四六一 一六① 手四下四一三—四四一 一三一① 手二下四三一—四六〇

▼『東方』281号より
七『胡適全集』の概要
▲ 山口 榮

十七	卷	頁・註	遺稿集原載頁
一四七①		手四下 三六五―三六七	
一四九①		手四下 三二九―三六四	
一六四①		手五下 五二五―五二八	
一六六①		手六下 三三七―三四五	
一八二①		手六下 三四七―四一九	
二四〇①		手六下 五〇九―五四三	
二五五①		手六中 二三五―二三九	
二五八①		黄一 一四一―二七八	
		五〇七―五一八	
三二二①		黄一 一一二―一三五	
		黄四 三八〇―三九三	
三二八①		手一下 三八七―四二〇	
三五〇①		黄四 九九―一〇四	
三五三①		黄四 三四九―三五六	
三五七①		黄四 三〇四―三一四	
三六三①		手五上 一一三―一三九	
		一〇七―一〇九	
三七三①		手一中 二七九―二八五	
三七七①		手一下 四二一―四二四	
三七九①		手一下 五〇一―五二六	
三九二①		黄四 一九一―一九五	
三九四①		黄三 二九三―三〇四	
四〇八①		黄一 一〇七―一一一	
四一四①		手五下 六二一―六四四	
四二五①		手六中 一九一―二三〇	
四四一①		手五下 五二九―五三四	
四四三①		手六下 四二一―四二六	
四四六①		手六中 二三三―二三四	
四四七①		手四上 五―九	

◀ 今月の『東方』

▶ トップページにもどる

◀ 書評目次へ

十七	卷	頁・註	遺稿集原載頁
四四九①		手四上 二七―三七	
四五四①		手四中 一五三―一六四	
四六〇①		手四上 三九―五一	
四六五①		手四上 五二―五六	
四六八①		手四上 八五―八七	
四七〇①		手四中 一九一―一九四	
四七二①		手四中 一九五―一九七	
四七四①		手四中 一九九―二〇〇	
四七六①		手四中 二〇一―二〇七	
四七九①		手四中 二三三―二四四	
四八五①		手六中 二三一	
四八九①		手四下 三七七―三七九	
四九一①		黄四 四六四―四七三	
四九五①		黄四 四七四―四八一	
四九九①		黄四 四八二―四八六	
五〇二①		黄四 四八七―四九八	
五〇七①		黄四 四九九―五一三	
五一二①		手四中 二四五―二五〇	
五一六①		手四中 二五一―二五二	

▲ 東方書店